

# アムールの風

正統右翼の論理

第14回  
田中健之  
(黒龍會会長)

## 第三章

歴史の再考察から見える歪んだ世界秩序

南北朝鮮問題を解決する新しい国家の建設

### 南北朝鮮の統一は日本の責任

今日の日本において、在日朝鮮、韓国人たちに特権があると言われてます。政治関係者の中には、あまりその問題を取り扱わない方がよいと言う人もいます。なぜならば在日朝鮮人の特権というのは、そもそも日本人が朝鮮を植民統治したことが申し訳ないなど思っ作った部分があるからというのが、その理由だそうです。それはある意味で、戦後補償の一環なのだという言い

方をする人もいます。日本が戦争に負けて、その後の処理が中途半端だったことに鑑み、その償いとして、日本にいる朝鮮人ぐらいは面倒見てやることになったというのが、在日朝鮮人の特権を認めるに至った経緯だとも言われています。しかし、これは臭いものに蓋をする、という考え方でしかありません。つまり本当に負わなくてはいけない責任を小手先だけで逃げているからです。それが在日特権の土壤を生むのであって、それがために、日本人と在日朝鮮人との間における、本当の良い関係が生まれる訳がありません。

左右の思想的な対立によって分かれてしまいました。

今は在日二世、三世の時代で、そのほぼ全員が日本で生まれ育った人たちです。そういう若い世代の在日の中から、民団でも総連でもない新たな在日の動きとして、南北に分断された祖国統一を望む運動があつてよいはずで、日本はそういう動きを支えるべきです。そして、若い日の人を中心とする南北統一をさせるべきです。

ところが、アメリカとロシア、そして中国などの冷戦の関係国からすれば、朝鮮半島はある意味で、緩衝地帯かんしゅうちたいにしておきたいという思惑おもむかがあります。それが南北統一の障害になっています。

しかし、朝鮮の南北統一を邪魔するのは、戦勝国のエゴです。なぜなら朝鮮半島は、日韓併合条約を締結した明治四十三(一九一〇)年から昭和二十(一九四五)年八月十五日の終戦に至るまで、国際法において日本だったからです。

韓国も北朝鮮も、日本との独立戦争に勝利して、それぞれが国家として独立したというではありません。日本がポツダム宣言を受諾したことによって、米・ソが日本の領土だった朝鮮半島を南北に分断して、それぞれに

傀儡国家を成立させたのです。

つまり朝鮮は、沖繩のように日本の領土だったのです。日本が戦争に負けなければ、朝鮮半島は米ソによって南北に分断されることはありませんでした。

日本がアメリカの追従勢力にならなければ、日本は南北の朝鮮に対して、平等に接することができたのです。朝鮮半島の南北分断を強めているのは、アメリカに付属している日本の体制に根本的な原因があります。

まさしくそれは、日韓合邦運動に関与した、玄洋社の杉山茂丸しげまるが日本の朝鮮統治を批判して、「朝鮮という怨霊が日本を崇たっている」ということなのです。朝鮮はまだ日本に崇たっているのです。

朝鮮半島を日本領土の一部にしていた日本が、南北に分断された朝鮮半島に対して、責任を持って、朝鮮半島の南北統一に寄与、貢献して、朝鮮半島を本来あるべき姿に復元してこそ、初めて日本の戦後処理が完結するのです。

今日の在日の社会では、民団や総連というように、南北に分断されています。しかし今日、在日社会では、三世、四世といった若い世代が在日社会の中心となつてい

る時代です。

それはもはや民団とか総連とかに分かれ、在日社会が南北に分断し続けている時代ではないことを物語っています。

若い日の人たちが立ち上がったって、南北朝鮮の統一を日本の協力下でやって行くべきだと私は思っています。日本はそれを責任をもって、しっかりとサポートするべきです。

### ——抗日パルチザンの正当性——

ソ連が朝鮮半島の北半分に成立させた北朝鮮、すなわち朝鮮民主主義人民共和国は、一九九一（平成三年）にソ連が崩壊したことによって、その後ろ盾を失いました。後ろ盾を失うということは、換言すれば、北朝鮮の手足を抑えるソ連という宗主国の存在が消滅したことになります。それによって北朝鮮はソ連からの自由を得た、つまりソ連の傀儡国家から脱却して、独立国家となったことを意味しています。

それに対して、朝鮮半島の南半分の大韓民国は、未だ南北朝鮮の統一をするという約束に基づいて、金一族は北朝鮮の人民に苦勞を強いて、核爆弾搭載可能な大陸間弾道ミサイル開発と実戦配備などに膨大な軍事費をかけて強化をしているのです。

アメリカに支配されている朝鮮半島の南半分の解放と統一という正当性を失えば、金一族は権力の中枢たり得ないわけです。従って、朝鮮半島の南半分の解放を達成するまでは、彼らはずっと南朝鮮の解放と統一を叫び続け、実践をしなくてはならないのです。

今、韓国において親北朝鮮の文在寅政権が成立したからといって、朝鮮半島の南北統一となる可能性があるかどうか注目されていますが、韓国がアメリカの支配下にあり続ける限り、その可能性はあり得ません。

大韓民国は建国以来、アメリカの傀儡国家であり、独立国家ではありません。つまり日本の敗戦によってアメリカが朝鮮半島の南半分に成立させたポツダム国家が大韓民国なのです。

従って唯一、朝鮮半島において、独立国家として正統性があるのは、アメリカの傀儡国家ではない政府に他ありません。

にアメリカの傀儡国家のままです。

悪い言葉で言えば、朝鮮半島は片翼が挽がれたインコのような状態であるため、自由に大空を飛び回ることができないのです。

そこでソ連の傀儡国家から独立した北朝鮮は、朝鮮半島が自由に世界の大空を飛び回るようにするために、アメリカの傀儡国家が支配する朝鮮半島の南半分を、何とんでも解放して統一せざるを得ないという国策を立てています。

北朝鮮に君臨する金一族としては、金日成、金正日、金正恩という三代にわたって「民族独立」ということを謳っています。そのため、一九四五年八月十五日、日本がポツダム宣言を受諾して以来、アメリカに支配され続けている朝鮮半島の南半分の対米独立を、金一族としてはやり続けなければならないのです。

彼らは、朝鮮独立運動史において、「正統なる抗日パルチザン」だとしています。そのため金一族が中心となって、アメリカに支配され続けている朝鮮半島の南半分の解放、独立をさせることができなかつた時には、彼らが北朝鮮に君臨する正当性を失うこととなります。

ということとは、ソ連の傀儡国家だった北朝鮮が、ソ連の崩壊によってポツダム国家から脱却し、独立国家となった事実を認めないわけにはいきません。

北朝鮮が平和的に韓国を上手く取り込んでいくとしても、アメリカはそれを阻止します。世界的にもそれを阻止することでしょう。

それは、このまま朝鮮半島の南北分断を強めて、韓国と北朝鮮が対峙したままの膠着状態が続くということを意味しています。

つまり、アメリカが韓国を軍事占領、支配し続けている限り、北朝鮮は軍事的な方法しか、朝鮮半島の南半分の解放、独立させて南北を統一する術はありません。それは朝鮮半島が安定しないことを意味します。

南北朝鮮の統一によって、朝鮮半島が安定するとアメリカは困ることになります。何故ならばアメリカは、韓国をロシアや中国との緩衝地帯として残しておきたいからです。分断化したままの状態を朝鮮半島を残しておきたいからです。

ところで、今の日本の国力や国情において、アメリカに逆らってまで、「こういふことをした方が良いので

はないか」という国策の提案ができる政治家は皆無です。日本も韓国と同様にアメリカの金や支援によってできているポツダム国家であり、その傀儡政権が日本を支配しているのです。

## ——日本はアメリカの追随勢力にすぎない——

私は、北朝鮮関連の報道において、心から口惜しく思うのは、日本は「アメリカの追随勢力」だという言葉方です。

「勢力」ということは、北朝鮮は日本を国家として認めていないからです。

戦後の日本は、まさしく彼らが言う通り、アメリカの傀儡、つまりポツダム国家であり、独立国家ではありません。だからこそ、私は口惜しいのです。

残念ながらポツダム国家の日本は、北朝鮮からそう言われても仕方がないのが現状です。それにしても、私は口惜しくてしょうがない。心底口惜しいのです。

逆に言えば、北朝鮮のような国力もない小さい国が、世界最大の大国アメリカと戦う外交戦、軍事戦が巧み

同様です。

ブロイラーや家畜の最期は、屠殺場に送られる運命にあります。

このようにアメリカからブロイラーや家畜のように飼い慣らされた日本が、アメリカに対抗、独立することが果たして出来るのでしょうか？

日本がアメリカから独立をしようとすれば、我々は、ロシアをはじめイランや北朝鮮同様に経済制裁を受けて、経済的に極めて苦しくなります。この時に日本国民は一体、どうするでしょうか？当然、一般的な日本国民は、国民を経済的な窮地に追いやった政府に不満を持つこととでしょう。

従って大多数の国民は、アメリカの植民地のままに甘んじて、このままの現状維持でよいと思っているはずですよ。

一九四五(昭和二〇)年八月十五日に日本がポツダム宣言を受諾して以来、今日に至るまで七十六年間、アメリカの軍事占領下にある日本は、国際的に見ればプエルトリコと同等の位置です。プエルトリコは、飯が食えていけば不満がなく、アメリカによって高度な自治が施さ

にできているわけですから、日本だって本気でアメリカに対抗する気になれば、北朝鮮よりもっと上手く、アメリカを翻弄することが出来るはずですよ。それが出来ないのは、日本の政治家は保身だけで度胸がないからですよ。だから日本は、戦後七十六年も年月が経っても、アメリカの追随勢力に甘んじているのです。否、追随ならまだマシです。じつは「従属」、つまり植民地なのです。

ところで、チベットの独立運動、南モンゴルの独立運動、ウイグルの独立運動など、中国国内の民族問題が発端となった根本的な原因は経済問題です。漢民族と比べて、経済的にこれらの民族は、差別されて苦しいのが実情です。従ってこれらの民族独立問題は、経済問題が発端となって生じていると言っても過言ではありません。

日本はアメリカによって経済的には極めて恵まれた状況にあるため、中国大陸に見られるような独立運動が生じる余地がないばかりか、アメリカに従属することに甘んじることが、日本の安寧だとする声も根強くあります。

つまりアメリカという飼い主から、日本は餌を与えられて生存をしているのです。それはブロイラーか家畜と立ることが困難な実情となっています。アメリカから朝鮮半島の有事においてはアメリカの軍事力に日本が守られていると思込んでしまっています。そのために仕方がないからアメリカを助けるのだと言って、日本の護衛艦がアメリカの原子力航空母艦の後ろに金魚のフンみたいにくっついて歩いていく惨めな日本の姿があります。

確かに、日本が北朝鮮の標的となって、核ミサイルを飛ばされる惨事を防ぐために、私自身もアメリカに日本を守って欲しいという気持ちもあります。それが、自身自身の矛盾として、実に悔しいのです。

北朝鮮からアメリカの追随勢力と呼ばれている日本ですが、アメリカからは、農産物の自由化とか自動車の関税に対して日本に対して大きな圧力を常にかけています。農作物の自由化や自動車の関税を交換条件として、日本はアメリカから守られているのです。それが日本の安全保障の実態です。

経済のみならず、安全保障や食糧問題でアメリカが転

んだ時のことを想像してみても下さい。アメリカによる支配体制に依存する今の日本は、いつか取り返しのない代償を払わされることになるでしょう。

ところで、日本が政治的な選択肢として、南北朝鮮統一を掲げていたとすれば、北との国交正常化もあり得るし、また、北との技術協力もあり得ます。

こうすることによって、日本がアメリカに対して、揺さ振り<sup>ぶ</sup>をかけてもよいと私は思っています。

中国やロシアとの関係を強化することで、日本がアメリカに対して強く出る外交戦略も、日本は選択肢として入れるべきです。

日本はアメリカ、中国、ロシアと対等に天秤にかける外交戦を展開して、国家の安全を確保し、日本は、経済的、政治的に自立する国家となるべきです。

### ——北朝鮮に流れるメイド・イン・ジャパン——

ところで、今の日本から、例えばパチンコの金が、北朝鮮の軍事費の一部として流れているのははじめ、使い終わった自転車、タイヤ、中古車などがどんどん北朝鮮

に流れています。そして核ミサイルの電子部品なども日本から北朝鮮に流れています。

恐らくそれらは、第三国を経由して、北朝鮮に流れていると思われま。

弾道核ミサイルの部品は、中国をはじめマレーシアと色々な国を経由して、闇取引で流れています。それは日本の危機管理が甘いためです。

レーニンはいいことを言っています。

「資本家というのは己の首を吊るロープを敵に売る」

例えば、中国に対して天安門事件以降、ODAを再開したのは日本です。日本の工業製品や自動車を、中国はそのほとんどを軍事転用しました。その結果、今や中国が軍事大国になりました。その背景は日本の経済的な支えがあったからに他なりません。北朝鮮も当然そうです。ここで大事なことは、ヤルタ・ポツダム体制打倒ということを戦後の民族派の人々は言うのですが、私はそれだけでは甘いと思っています。

やはり戦後の世界を築いた秩序である、サンフランシスコ体制を打破しない限りは、日本の国家としての独立はあり得ないからです。

鮮半島に成立することとなります。

かつて日韓合邦運動において、両国の先覚<sup>せんかく</sup>が思い描いた『鳳の国』という新国家構想がありました。それは古代に実在していた『渤海国』の再興を意味しています。つまり南北の統一は、ポツダム国家としての朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国という二つのポツダム国家に終止符を打つことで、『渤海国』を再興する機会を得ることになります。それは、朝鮮民族の理想でもあります。『渤海国』の朝鮮半島部分はかつて『東震国』と呼ばれていました。

まずは南北統一による『東震国』を建国して、次に白頭山を中心に広がる地域に朝鮮民族の理想国家である『渤海国』を建国する。こうした新国家建国構想について支持を表明する韓国人は、決して少なくありません。



田中 健之（たなか たけゆき）

歴史作家、維新運動家。昭和38年11月日生まれ、福岡市出身。交洋社初代社長岡浩太郎の曾孫で、果敢会を創立した内田良平の血脈を継承する親族。拓殖大学日本文化研究所近代研究センター委員研究員を経て、現在、ロシア科学アカデミー東洋学研究所フェリスコフ市立教育大学外国語学部客員研究員、日露歴史協会の会長、2008年に黒龍省を再興し会に就任。主な著書に『満洲に祀られる人々』、『昭和維新』、『北朝鮮の終極』、『美は日本が大好きなロシア人』、『横浜中華街は、中央公論』、『正論』、『歴史群像』などの論議誌に多数執筆。

サンフランシスコ体制を打破すべき新勢力としての日本の存在があれば、日本は、サンフランシスコ体制に代わる世界的な新秩序建設の中心になる事が出来るはずです。

それによって日本は、真に独立国家となる事が出来るのです。

### ——朝鮮民族の理想『渤海国』の再興——

では、新秩序とはどういうことなのでしょう？

私の友人で、韓国人の映画監督がいます。元々、彼は留学生で、韓流ブームを作った人物です。

私が、日本を後ろ楯とする南北統一論を述べると彼は喜んでくれます。すごくいいって。

元々留学で来た人ですから、在日ではありません。何人かの韓国人に同じ話をしたら、彼らもそれを歓迎してくれています。その方たちも在日でない人たちなのです。

私は、日本の支援で南北朝鮮が統一した暁<sup>あかつき</sup>には、戦勝国がポツダム国家としてでっち上げた、傀儡国家の朝鮮民主主義人民共和国でも大韓民国でもない、新国家が朝